



平成 29 年 4 月 10 日

報道機関 各位

東北大学産学連携機構
東北大学金属材料研究所
東北大学未来科学技術共同研究センター
東北大学ベンチャーパートナーズ株式会社
株式会社 Piezo Studio

**大学発ベンチャーPiezo Studio（ピエゾスタジオ）に
東北大学ベンチャーパートナーズが出資**
- 本格的 IoT 時代に必須の電子デバイス「高速起動ランガサイト振動子」等、
各種ピエゾ素子を製品化 事業拡大へ -

【概要】

東北大学金属材料研究所（金研）・未来科学技術共同研究センター（NICHe）教授の吉川彰らが設立した株式会社 Piezo Studio に東北大学ベンチャーパートナーズ*1からの出資が決定しました。

Piezo Studio は金研・NICHe、電気通信研究所、工学研究科（電気）が培ってきた研究基盤を民間企業の製造技術と融合し、革新的な製品を創製することで人類の幸福に貢献するべく平成 26 年に設立されました。今回の出資を受け本格的 IoT 時代に必須のランガサイト振動子*2を中心製品に事業拡大を実施します。

本格的 IoT 時代には多数の端末がネットワークを形成しますが、各端末の待機した状態から起動するまでの時間が長いとデータ衝突が多発し、送受信に支障をきたします。そこで Piezo Studio はこの問題を解決するランガサイト振動子を開発し、起動時間を従来の 1/10 に短縮することに成功しました。こうした Piezo Studio の成果により、将来的な市場拡大が期待され出資に至りました。

振動子に代表されるタイミングデバイス市場は今後 15 年で約 3000 億円の市場規模拡大が見込まれており、本製品は従来の振動子では満たしきれない市場ニーズに対応できることが最大の強みです。東北地域企業との連携により、かつて日本の独壇場だったタイミングデバイス市場の奪還・席捲を狙います。今後市場拡大が見込まれる自動車産業へも積極的に参入予定です。さらに医療用薬剤送達デバイス用、バイオセンサ用、次世代通信用のピエゾ素子も順次製品化予定です。

東北大とのオープンイノベーションを技術基盤としつつ、地元企業における OEM 生産体制を整え、世界と地域を繋ぐコネクターハブ企業として地域と共栄するビジネスモデルを採用しているのも Piezo Studio の特徴の一つです。

※1 文部科学省及び経済産業省認定の東北大学出資子会社。大学発ベンチャーへの支援・出資を行う。

※2 振動子はタイミングデバイスとして用いられる電子部品。世の中にある様々な電子機器が正常に機能するには、周辺のコントローラーとの連携（同期）をとる必要があります。一定間隔で安定した周期の信号「クロック信号」が必要。この基準となる一定周期のクロック信号を発生させているのが「タイミングデバイス」であり、電子機器が機能するために必要不可欠なキーデバイス。現在は主に水晶やセラミックスが使われている。Piezo Studio は新規ランガサイト型単結晶を用いることで高速起動化・低消費電力化・小型化に成功した。